

教員名	棚橋 訓 (TANAHASHI Satoshi)
所 属	人間文化創成科学研究科研究院基幹部門人間科学系
学 位	文学修士 (1984年3月、慶應義塾大学) 博士 (社会人類学) (2002年2月、東京都立大学)
職 名	教授
URL / E-mail	tanahashi.satoshi@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

文化人類学 / 歴史人類学 / オセアニア地域研究 /
ジェンダー・セクシュアリティ研究 / 文化景観形成

◆主要業績

総数 (17) 件

- ・「多文化共生の海を求めて—オセアニア史へのまなざしをめぐる若干の覚書」
『人間発達研究』第29号, pp.1-12., 2007年3月.
- ・「「再生産」の「テクノロジー」を理解 (しよう) すること」
『F-GENS ジャーナル』No.7, pp.102-103., 2007年3月.
- ・放送大学教養学部共通科目テレビ放送授業
『人類の歴史・地球の現在—文化人類学へのいざない』 (UHF, CATV, CS), 第1回～第15回 (各回45分),
本多俊和・三尾裕子との共同作成, 2007年2月全編作成完了, 2007年4月～2011年3月 (各回9回放映) 予定.

◆研究内容

2006年度は、科学研究費補助金の研究分担者として、(1)オセアニア環礁景観の考古学的・歴史人類学的総合研究とその現代的活用策の検討 (平成18～20年度、基盤 (B)海外学術調査)、(2)ローカル・センシティブな「開発とジェンダー」研究の構築をめざして(平成18～20年度、基盤 (B))、(3)トランスナショナリズムと「ストリート」現象の人類学的研究(平成18～21年度、基盤 (A)海外学術調査)、の3件の課題で調査研究を実施した。特にここ数年は、オセアニアの小島嶼世界において「文理の壁」を越えたフィールドワークを積み重ねることで、人間による社会的=文化的な世界構築の過程と、人間による(広義の)環境への介入と共生の歴史を析出し、人間に関する新たな総合研究構築の可能性に挑んでいる。

◆教育内容

2006年度は、「文化人類学 (コア科目)」、「人間と発達 (共担)」、「教育科学研究指導(共担)」、「文化人類学概論」、「文化人類学特殊講義」、「文化人類学演習」等の授業を学部において、また、「比較文化ジェンダー論演習」、「開発・ジェンダー論特論(共担)」、「ジェンダー文化論」等の授業を大学院において開講し、文化人類学分野および隣接分野の一般教育・専門教育ならびに論文指導に従事した。また、国際基督教大学、首都大学東京、成城大学、和洋女子大学、放送大学などでも文化人類学分野の講義および教育指導を実施した。



◆Research Pursuits

With Grant-in-Aid for Scientific Research of the Japan Society for the Promotion of Science respectively, I engaged in three research projects as follows: (1) archaeological and historico-anthropological studies on Oceanic atoll landscape formations, (2) construction of locally-sensitive gender and development studies, and (3) anthropological studies on transnationalism and street-phenomena.

◆Educational Pursuits

For the scholastic year of 2006, I offered the lectures, seminars, directed-readings for thesis and disertation writing for both undergraduate and graduate programs at Ochanomizu university. The courses that I offered were as follows: Cultural Anthropology, Introduction to Cultural Anthropology, Advanced Lectures in Cultural Anthropology, Seminar on Cultural Anthropology, Introduction to Educational Sciences, Tutorial Course in Educational Science, Gender and Culture(MA Program), Special Studies in Development and Gender (MA Program), Comparative Studies in Gender and Culture(Ph.D. Program).

◆共同研究例

海外移住・出稼ぎの民族学的研究、性現象の比較研究、ローカル・センシティブな「開発とジェンダー」研究の構築、トランスナショナリズムと「ストリート」現象の人類学的研究、等々。

◆共同研究可能テーマ

- ・新興国家と国民文化・地域主義
- ・環境問題と先住民族
- ・ジェンダー秩序

◆将来の研究計画・研究の展望

外部資金を得て、以下の諸点に関する実証研究ならびに理論研究を継続・実施する計画である。(1) オセアニア島嶼世界の近代と社会変動に関する研究(土地所有制度の変遷、政治制度の変遷、労働移動とディアスポラ、ジェンダー規範とセクシュアリティの変容、ポリネシアン・ルネッサンス)、(2) third gender/gender liminalityの民族誌的研究、(3) 文化景観資源の保全・継承・活用と ethnic identity 形成に関する研究、(4) トランスナショナリズムとストリート現象の研究、(5) 第四世界的状況

◆受験生等へのメッセージ

私は文化人類学の視点と方法から現代世界の様々な問題群を実証的に捉えて理解し、その成果を現代世界に還元することを目指して研究を続けています。人間が抱える文化や言語の多様性を木目こまやかに捉えて、われわれが生きるこの世界を多様性の視点から理解しようとするのが文化人類学という分野の特徴です。20世紀後半から一気に加速したグローバル化の動きは、逆に、グローバルな流れに取り込まれることのない現実がいかに多くあり、個別の価値観を考える重要性を改めて気づかせてくれたと言えるでしょう。現代世界の混沌として複雑な様相を、まさにその多様性・多元性・重層性において理解しようとする視点は、21世紀においてこそ、その重要性を増しています。文化人類学が主張するのは、「多様性に向き合う眼」と「21世紀における外向と共生の思考」です。多くの受験生には文化人類学は未知の分野だと思いますが、お茶大入学の暁には、是非ともこの未知の分野に積極的に分け入り、現代世界を見渡す新たな眼を手に入れて欲しいと思います。